

高橋 直之

Takahashi Naoyuki

【出身中学校】
酒田市立第五中学校
高校/工業

酒田市生まれ。高校卒業後、実家の鉄工所に5年勤務。23歳で結婚し、紀子さんの実家の農業に就く。農事組合法人庄内協同ファーム副代表。



アイデアと努力で
好きなことを仕事に

高橋 紀子

Takahashi Noriko

【出身中学校】
余目町立余目中学校
(現庄内町立)高校/普通
大学/農業経済学
専修学校/農業

庄内町生まれ。北海道の大学、長野県の大学を卒業。「はらべこファーム」代表として、ラズベリーの栽培・加工販売を手がける。

目標

仕事も人との
つながりも
自分で作って
育てていく。

紀子さん

自分で仕事を作り出せる、農業は自由な職業です。

毎年のことなのに作物が育つのがうれしい。 直之さん

＊農家に生まれた紀子さんが「自分がしたい農業」を見つけたのは、大学在学中、農業実習の畑のすみにラズベリーを見つけた時でした。そうして「はらべこファーム」を始めて13年。40本の苗木から始まった農園は、今やラズベリーでいっぱい。無農薬・無化学肥料での栽培を続けています。「病気や虫の被害で全滅しかけたこともありましたが、農園に来る子どもたちがラズベリーを摘んで食べる姿を見ると、やっぱり葉は使えません。気の長い育て方ですけどね。」収穫したラズベリーは自宅の加工場でジャムやソースなどにして、お店などに出荷します。「自分で作って自分で売る」ゼロからスタートした商品は、いまや東京のケーキ店や地元のかき氷店でも使われるようになりました。

。「私にとってのラズベリーのよう、自分の好きなことを仕事にするのは、アイデアや努力しだい。もうかるかどうかより、自分の育てたものでいろんな人とつながったことで、農家で良かったと感じる機会がいっぱいありました。」と紀子さん。

直之さんは「農業を始めて一番良かったことは、毎年作物が育つのが見られること。」と話します。「農家は命をつくり続ける職業で、地域の風景をつくり続ける職業。誇り高い仕事をしているなって思います。」さまざまな職業の人たちと交流したり、SNSなどで農作業の様子を伝えたりと、自分たちの農業の道を広げているお二人。「幸せの価値は近くで見つけられる。」という言葉に、農業という仕事の輝きを見た気がしました。



はらべこファームの加工品

はらべこファーム
高橋さんが
主に作っているもの



米(18ha)

ラズベリー
ブラックベリー
(16a)

自家栽培のラズベリーのほか、ラ・フランスなどのジャムやソースも販売。「飲むジャム」「あったまっ茶」シリーズも好評です。



高橋夫妻にQuestion!

Q. 中学生の頃好きだった教科は何ですか?

紀子 国語と美術です。作文が得意で、研修や実習に行きたいところに手紙を書くこと採用されたり、今も助けになっています。

直之 図工です。工具屋になりたい。どこかの島の郵便局員になって、配達でいろいろな人と茶飲み話をするのも夢でした(笑)。

Q. 今、お気に入りの品を教えてください

紀子 お料理やインテリアにも使えるハーブ。いろいろな効果もあるので、もっと勉強したいです。

直之 農作業のない時は、秋田までバス釣りに行きます。時間があれば車の修理もしたい!

お気に入り
毎日楽しく
入ります!

